

求められる人材へのワンステップ
韓国ニュースポーツ協会での ISCO - OP

方住月

鹿屋体育大学大学院 修士課程 2年生

1. 実習の目的及び課題

韓国ニュースポーツ協会での実務体験

本協会が開いているニュースポーツ関連イベントや講習会に参加し、協会が持つ社会的貢献度や役割を体験する

韓国におけるニュースポーツの位置づけについて知る

2. 実習内容

韓国ニュースポーツ協会にて、協会で携わっているほとんどの業務を体験することができた。その中でも主な業務として、日本との交流プログラムが多いため通訳や翻訳の業務を担当させていただいた。特に実習期間中、本協会の主催で開かれた日韓学術セミナーや幼児体育講習会で翻訳、日本との交流プログラムのための書類の翻訳作業を担当させていただいた。また、本協会は毎年ニュースポーツ講習会やニュースポーツ体験イベントを数多く開催しているが、私もスタッフとして参加し、子どもを対象としたスポーツキャンプにもスタッフとして参加させていただいた。

3. 実施期間：2008年6月27日～同年の8月3日

4. 施設の概要及び事業

設立：2006年1月 社団法人 韓国ニュースポーツ協会として設立

目的：ニュースポーツを通じて健康な国民育成と社会づくりに寄与し学校体育の普及・振興とともに生活体育の普及・振興のために子どもから高齢者まで全国民を対象とした新しいスポーツを開発・普及し、健全な国民づくり、また国際親善に寄与することを目的とする。

主な事業：指導者養成（ニュースポーツ指導者，シルバースポーツ指導者，教員研修）
イベント（全国ニュースポーツ大会開催）
社会活動（幼児・青少年・高齢者・障害者を対象としたニュースポーツ指導）

国際交流（アメリカ・日本・中国等の国のニュースポーツ関連団体との交流）
研究活動（ニュースポーツ関連研究，ニュースポーツプログラム及び用具の
開発）

出版事業（ニュースポーツ指導書，ビデオ制作）

5．本協会での所感

私は現在韓国と日本のニュースポーツについて研究活動を行っており，論文もニュースポーツによる楽しさを中心に進めている．そのため，本学校の生涯スポーツ実践センターの行事として行われるさまざまなニュースポーツ関連事業にスタッフとして参加させており，ニュースポーツ関連種目の実践が主な授業である生涯スポーツ&ゲームズという授業でもティーチングアシスタントとして勤めさせていただいている．このように現場での実践的経験とともにニュースポーツに関する理論的部分においても様々な資料通じて習得し，研究をさらに展開させていきたいと考える．今回の実習は私が最も望んだ場所での実習であったため，多くのことを学ぶことができ有益であった．韓国ニュースポーツ協会での実習は，韓国におけるニュースポーツの現状を知る大変貴重な経験であった．

1) ニュースポーツ協会における事務的業務

内容

本協会は，ニュースポーツという言葉を始め韓国に紹介したソ・サンオク会長をはじめ，ニュースポーツの長所を理解し，韓国に普及させようとする先生方の力で2006年に設立された．設立以来本協会は，韓国へのニュースポーツの普及のために，ニュースポーツ関連資料の製作やイベント開催，講習会等の様々な事業を行っている．

私が実習に行った時は，韓国国民生活体育協議会が編纂するスポーツ種目マニュアルの編集作業を担っていたので，各種目を代表する団体に資料の収集に関する協力を依頼するメールやファックスの発信などの業務を担当させて頂いた．その業務の中で，自然に韓国の様々なスポーツ団体やスポーツ関連組織の仕組みやあり方について知ることができ，韓国のスポーツ社会を理解する貴重な機会になった．また，本協会は研究活動にも力を注いでいるため，膨大な資料を必要とする場合が多く，私には韓国全国にある大学の体育関連学部の所在・担当教員を調べる仕事を任されたが，短い期間中に他の業務と並行するには時間に限りがあり，完全に遂行することができなかった．

韓国ニュースポーツ協会は，アメリカ，日本，中国のスポーツクラブやスポーツ組織と深い交流関係を組んでおり，子供の国際親善試合やスポーツキャンプを開催しているため，外国とのコンタクトを取っている．その中でも特に日本との交流活動が活発に行われているため，実習中，日本語を韓国語に直し，韓国語を日本語にする翻訳業務も多かった．

自己評価

韓国ニュースポーツ協会が行っている事業はニュースポーツの紹介から用具の開発・提供，そして研究活動まで，実に様々な分野まで広範囲であった．それは，私が想像していた以上であり，ニュースポーツという新しいものを紹介・普及するのは思っていた以上に広く，また先のことまで見通さないといけないということが分かった．私は，学校で様々な事業や調査に関わっていたのでデータの収集や処理に大きな問題はなかったものの，事務室でのデスクワークとそれ以外の現場での業務両方とも体験する中で，任された業務を一つずつ成し遂げていくには時間的な限界が感じられた．前述したように韓国全国の大学にある体育関連学科に関する資料の収集は最後まで責任を持って処理することができなかったことが今でも一番残念に思っているところである．しかし，それ以外では事務室の温かい雰囲気ですぐなじむことができ，職員の方と親しくなり，日本語がよく使われる業務で役に立つように昼休みの時間を借りて日本語講座を開き教えたことや，お互いに自分の仕事のように助け合ったことは，一人の社会人として周りの人との人間関係が一番大事であるコミュニケーションをとる力を身につけるよい経験になったのではないであろう．

2) ニュースポーツ協会主催の講習会及びキャンプ等の現場での業務

内容

韓国ニュースポーツ協会は韓国に導入されている様々なニュースポーツを，全般的に統括し，韓国の事情や状況に合わせた形にして一般市民や学校に紹介する活動を主に行っている．特にニュースポーツは学校体育の素材としてふさわしいと判断した多くの教師と共に学校体育への導入・普及活動が活発に行われてきている．そのため本協会では，毎年，全国を回りながら学校教師を対象とするニュースポーツ講習会を開いている．協会の努力と共にニュースポーツは学校体育としての高い可能性を評価され，今年からはニュースポーツ協会がソウル市教育庁からニュースポーツ職務研修機関として指定された．私の実習期間中にニュースポーツ職務研修会が行われ参加することができた．そこで多様なニュー



スポーツを習うために全国各地から集まった先生方の現場の声を聞くことができ，貴重な時間を過ごすことができた．テニス講習会やニュースポーツ体験イベントにもスタッフとして参加させていただき，参加者に対してニュースポーツ指導のアシスタントをさせていただいた．また，日韓幼児体育学術セミナーやプログラム講習会では，初めての同時通訳を任せ少し緊張もした．

自己評価

現在、鹿屋体育大学でニュースポーツ関連種目で編成されている生涯スポーツ&ゲームズという授業のティーチングアシスタントをさせていただいているためニュースポーツに関する理論的・実践的知識をある程度習得していた。また、大学の事業として行われる様々なイベントに参加し、ゲームやレクリエーションの指導に関する経験も積んできたが、私の能力を大学ではない他の場所で試す機会はほとんどなかった。しかし、今回の実習では、私の盾になっていた大学という垣から離れ、一人の社会人であり、一人のプロとして皆の前に立つ機会を与えられたのは滅多に経験できないことだと思う。最初は、緊張もし、うまく指導できるという確信もなかったが、人の前に立ってプログラムを進めていくうちに自信がつき、いつの間にかちょっとした緊張感を楽しんでいる私があった。

また、韓国ニュースポーツ協会は分科機関として幼児体育分科を設置しており、日本の幼児体育に著名な先生やスポーツクラブとの交流を通じて、日韓幼児学術セミナーや幼児体育プログラム講習会を開催することで韓国の幼児体育発展の中心になっており、私が実習で初めて任された仕事もこの幼児体育関連の業務であった。日本から韓国に来られた先生方が幼児体育プログラムを紹介する時に同時通訳をすることであった。同時通訳の経験も、幼児体育の経験もなかった私に急に大きな課題が与えられ戸惑いもあったが、学校で



学んだ「積極的に取り組むこと」を思い出し、自信をもって、通訳だけでなく一緒に教える気持ちになり取り組んだ。終わってからは先生方から言葉が通じなく心配していたが、いい通訳が居てよかったと声をかけていただき、大きなやりがいを感じた。

6. 全体自己評価及び分析

今回私は、本学校と韓国のスポーツ関連機関との連携ということで、母国で国際スポーティングコープを実施するという特別なケースであった。そのため、一般的に最も不安を感じるとされる「言葉」の問題はなかった。しかし、私は現在、日本で生活をしているため韓国のスポーツ事情について分からないことが多く、知り合いの幅も狭かった。しかし、ISCO-OP を機会に韓国のスポーツ社会にも関心を持ち続けたいといけなと感じ、今回のISCO-OPを通じて韓国のスポーツ現状が理解できるようになり、私が活動できる範囲が少し広がったのではないと思う。

また、今回の実習先は私の関心分野であり、行きたかったところであったため、毎日の経験が私にとっては貴重であり、様々な業務を体験しながら充実した日々を過ごせたことは大変良かったと思う。一ヶ月という短い期間ではあったが、多様な体験の場を作ってくださった協会の皆様のおかげで内容の濃い充実した実習となった。また、私自身も大学で身につけた能力や知識をテストしてみたいと思った部分があったため、積極的に仕事に取り組むことができた。しかし、一つの課題を最後まで仕上げないまま実習が終わってしまい、今でも心の中でいつかはやり遂げないといけない課題として残っている。このことは、短い期間の設定に一番大きい原因があるのではないかと思う。私の場合は母国での国際的なコーププログラムという形になったが、「International SCO-OP」という名前だけに、言葉があまり通じないところでの実習もありうらと思う。この場合は、まず環境に慣れ仕事を把握するまでの時間がかかると思う。そのため、可能であれば、時間を少し長くとるのも必要であると思われる。また限られた期間の中、いくつかの仕事を同時任された時にどれだけうまく時間のコントロールができるかといった問題もあり、時間を有効的に使用する計画性について反省するきっかけにもなった。

7. 企業・行政機関が求める SCO-OP 実習生とは

韓国ニュースポーツで行った約5週間のISCO-OPは私に未来の社会人として一步踏み出す力をくれたが、その一方多くの課題も与えてくれた。

大学で学んで積んできた経験が、学内だけでなく、学外でも通用できる有効的な能力になっていることを発見したことはいい成果であるといえる。しかし、時間の効率を考えた上での計画が難しく、韓国のスポーツ事情を含む社会事情に自分自身の弱い部分であるということが分かった。私はせつかく両国の言葉を話すことができるので両国の文化を学び、さらに広い舞台で活躍できる人間になりたいと思った。その他にも、また積極的に自分をアピールするが、丁寧に物事を言える人が社会では望まれているということも実感した。

つまり、自分を売り出すためには基本となる能力はもちろんのこと、仕事に対する情熱、円満な人間関係や仕事の効率を高めるために必要と言われているコミュニケーション能力、時間管理能力であり、さらに、積極的な態度や笑顔はどこでも大事な項目として挙げられると思う。

また、常に自分自身に関心を持ち、自分がやりたいものは何か、自分にふさわしいことは何か、どこに興味があるか、自分にできるのは何であるが、またできないのは何かをしっかりと把握しておくことも大事だと思う。このように自分自身のことをよく知っておくと実習先を選ぶにも、実習先に行って仕事を任される時も、自分に適したものになってくるのではないかと思う。

8. SCO-OP 実習に関する全体所感

ISCO-OP 実習は、ある程度の生活費の援助を受けながら行われるため、一般的に海外で生活する時と比べ安定した生活ができる。また大学と海外の企業・機関とは正式の手順を踏まえた上での連携であるため安心して実習へ臨むことができる。しかしながら、実習を始めると言葉の壁を始め、日本とは全く異なる国の社会雰囲気にも慣れにくく、途中諦める場合が出る可能性もありうる。そのため ISCO-OP を希望している学生がいたら、希望者を対象に約半年前から使える簡単なビジネス英語授業を行い、試験に合格した学生のみ実習に行かせることもいい方法であると思う。

今回私は、第 1 希望であった韓国ニュースポーツ協会にて実習できたのは大変良かったと思う。自分の能力を試すことによって、自分の強みと弱みがはっきり分かった。私の強みはますます伸ばし、また弱みも様々な努力を通して強みに変えられるように一歩ずつ前に進みたいと思う。

最後に、私を協会の一員として受け入れてくださった韓国ニュースポーツ協会の方に心から感謝する。